

まえがき

このたびはビシャモンのハンドパレットトラックをお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書を熟読いただき、十分に納得された上でご使用ください。なお、この取扱説明書は大切に保管していただき、万一紛失した場合は速やかに販売会社にご請求ください。また、製品に貼り付けてある警告シール等が剥がれた場合も販売会社にご請求ください。

【ご注意】

この取扱説明書では、お守りいただかないと重大な人身事故につながるおそれのある注意事項は「警告」という見出しの下に掲げてあります。また、お守りいただかないと傷害を負う可能性および物的な損害の発生が想定される注意事項は「注意」という見出しの下に掲げてあります。

目次

- | | | | | |
|----------|--------|----------|----------|----------------|
| 1 使用上の注意 | 3 始業点検 | 5 故障と対策 | 7 廃棄 | 9 アフターサービスについて |
| 2 各部の名称 | 4 操作方法 | 6 メンテナンス | 8 商品保証規定 | 10 梱包リスト |

1 使用上の注意

警告

下記の事項に違反すると重大な人身事故につながりますので必ず守ってください。

フォークの下に手足を入れないでください。挟まれて怪我をします。	傾斜地では使用しないでください。転倒や暴走につながります。	人を乗せないでください。人の転落につながります。
移動する時には前後に人がいないことを確認してください。	走行中、ホイールから足を離してください。ひかれて怪我をすることがあります。	段差のある場所では注意して移動してください。転落や転倒の危険があります。

注意

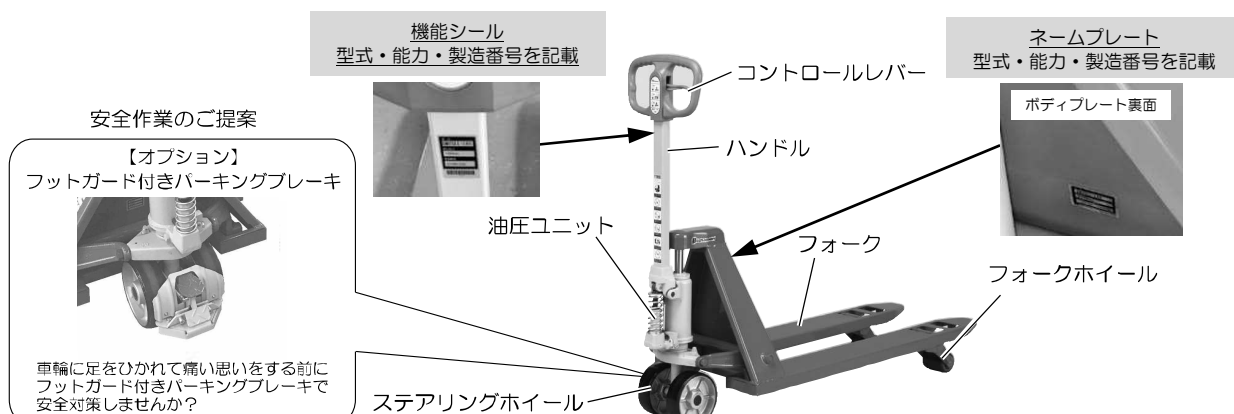
- 取扱説明書をよく読んで理解してからご使用ください。
- 最大能力を超える荷重で使用しないでください。
- フォークを急降下、急停止させないでください。
荷物がバランスを崩したり、本機が破損します。
- 改造をしないでください。
- 取扱説明書に従い必ず点検してください。
- 耐水仕様になっておりませんので、乾燥した場所で使用してください。
- 荷物を載せた状態で段差のある床を通らないでください。
- 周囲の温度が0℃以上 40℃以下の場所で使用してください。

9. フォーク等で強い衝撃を与えないこと。
本体および各部品が破損することがあります。

10. フォークの先端や片側のフォークのみで荷物を上げないこと。本体および各部品が破損することがあります。

※ 上記のことをお守りいただかないと、トーションチューブおよびプッシュロッドの曲がり、またはサビの発生、パッキン類の劣化により本体および各部品が破損することがありますので十分注意してください。（クレームの期間内であってもクレームの対象とはなりません）

2 各部の名称



3

始業点検

点検は本機を安全にご使用いただくため、また不具合箇所を早期に発見するために大きな役割を果たします。作業を始める前に下記の事項を点検してください。

⚠ 注意

異常と思われる箇所が発見された場合は、異常箇所の修復を完全に行うまでリフトの使用を禁止してください。そのままお使いになるとリフトの破損および事故につながるおそれがあります。

毎日作業前に実施してください。

1. 外観上、破損、曲がり、傷はないか。
2. 油圧ユニットから油漏れはないか。
3. 上昇後、フォークが自然に降下しないか。
4. 各車輪はスムーズに回転するか。

4

操作方法

4-1 上昇

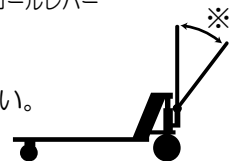
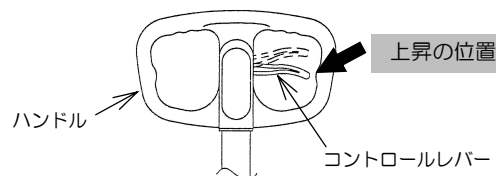
最大能力を超える荷重で使用しないでください。
※改造によって能力が変更された場合は、本体に貼付されている能力シールを確認の上ご使用ください。

シリーズ名	最大能力	シリーズ名	最大能力
BM08	800kg	BM15-80/ BML15-80	1350kg
BM12-40/BM15-95/ BML15-95	960kg	BM15/BML15/ BMP15/BMBP15	1500kg
BM10/BMRP10	1000kg	BM25	2500kg
BM11/BMP11	1100kg	BM30	3000kg
BM12/BM15-40/ BML15-40	1200kg		

- ① フォークをパレット等に差し込みます。
- ② コントロールレバーが上昇の位置にあることを確認します。
- ③ ハンドルを上下(※)に動かせばフォークは上昇します。任意の高さまで数回操作してください。

⚠ 注意

両面パレット、樹脂パレット使用時は、フォークホイールがパレットの枠に掛からないように注意してください。本機が破損するおそれがあります。

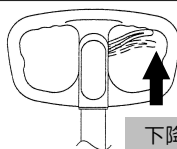


4-2 下降

⚠ 警告

荷物やフォークの下に足などをいれないこと。
挟まれて怪我をします。

- ① コントロールレバーを慎重に引き上げるとフォークが下降します。
安全な速さで下降させてください。



解説

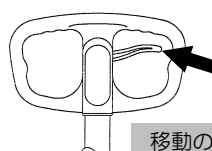
フォークは油圧シリンダーで保持しています。油圧機器の性質上フォークは極めて微小ながら下降していきます。
自然降下量が大きくなったときはエアが混入している場合があります。エア抜き作業を行ってください。
また、フォークが上昇した状態を長時間保持することはできませんので、ご承知ください。

4-3 移動

⚠ 警告

傾斜地で使用しないこと。動きを止められなくなります。

- ① コントロールレバーを少し持ち上げてハンドルに掛けます。
ハンドリングが楽になります。
- ② ハンドルを持ち移動させます。



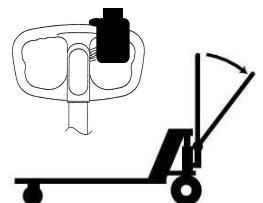
＜早送り装置の操作手順＞

⚠ 注意

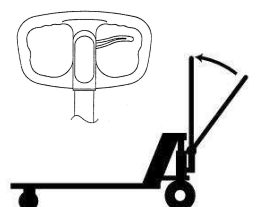
早送り装置は必ず無負荷でご使用ください。

- ① コントロールレバーを握り、下降状態にします。

- ② ハンドルを手前いっぱいまで倒すと、約 70mm 上昇します。



- ③ ハンドルを倒した状態でコントロールレバーを離し、ハンドルを戻してください。



5

故障と対策

故障状況	故障原因	対策方法
上昇しない	作動油不足	作動油の補充をしてください
	プレッシャーピン⑤の固着	プレッシャーピンのオーバーホールまたは交換
	バルブスプリング③の破損	バルブスプリングの交換
	鋼球⑥のシート不良	異物を取り除く
ポンプ回数	Uパッキン⑦の消耗	Uパッキン交換
軽負荷だと上昇するが重負荷だと上昇しない	鋼球のシート面が荒れている	シート面のボンチング
	鋼球にキズがある	鋼球の交換
ボンピングする上昇するがハンドルを戻すと下降してしまう	コーン④とコーンシート⑧の間に異物が挟まっている	異物を取り除く
	バルブスプリング③の破損	バルブスプリングの交換
	エアーの混入（エアー抜き作業）	一番上まで上昇させて5回程度ボンピングする
自然降下する	Uパッキン⑦の消耗	Uパッキンの交換
	コーン④とコーンシート⑧のシール不良	シート面のボンチングまたは交換
	コーンシート⑧のOリング⑩のシール不良	Oリングの交換
	プレッシャーピン⑤の固着	プレッシャーピンのオーバーホールまたは交換
下降しない	ロワリングレバー部⑫の調整不良	調整⑬⑭

※表内の番号は下図を参照してください。

6

メンテナンス

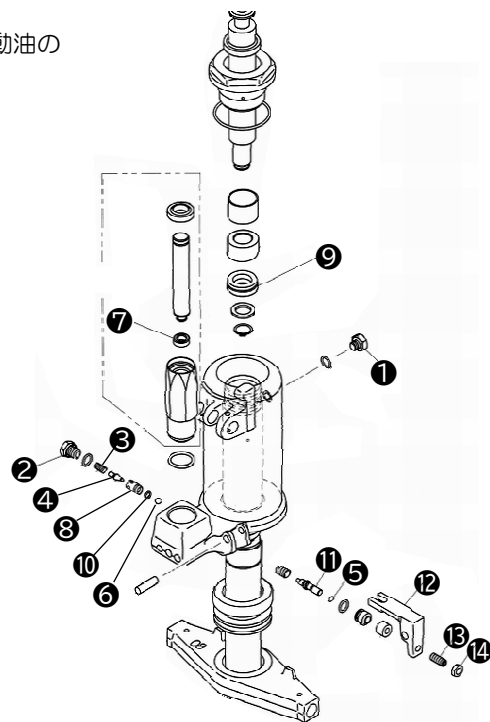
修理には非常に熟練を要する作業が求められる場合がありますので、修理の際は販売店にご連絡ください。

■作動油について

作動油に異物が混入したり、長期使用して作動油の色が真っ黒になった場合に作動油の交換が必要になります。交換方法や、作動油の種類は下記を参考にしてください。

■油圧作動油の交換

1. ハンドパレットトラックを平坦な場所に移動させます。
2. ハンドパレットトラックを最低位まで下降させます。
3. ポンプユニット側面の給油プラグ①をスパナ(17mm)で外します。
4. バックバルブスクリュー②の下にオイル受皿を置きます。
5. バックバルブスクリュー②をスパナ(17mm)で外します。
6. 本体ハンドルを1回ボンピングします。
7. 作動油とともにバルブスプリング③とコーン④が出てきます。出てこない場合は、ラジオペンチ等を使用して取り出します。
8. 作動油が少しずつ出てきます。少し時間がかかりますが、オイル受皿で受けて、作動油が止まるのを待ちます。
9. コーン④の先の尖った方から入れます。
10. バルブスプリング③を入れ、バックバルブスクリュー②を締めます。
11. 下記作動油を約 0.5L 入れて、給油プラグ①を締めます。
(最上昇位置まで上がらない場合は、作動油を追加してください)
12. 一番上まで上昇させて数回ボンピングすると、内部のエアーが抜けます。



■各軸受部の注油

基本的に各軸部には無給油プッシュを使用していますので、注油の必要はありません。

ただし、湿気が高い現場や埃の多い現場で 사용되는場合は、プッシュの消耗を早めてしまいますので、錆防止、ゴミの侵入防止のためグリス注入をお願いします。また、プッシュは消耗品ですので定期的にご確認ください。プッシュが無いまま使用されると、重大な故障の原因となります。

安全に使用していただくために、必ず定期的にメンテナンスを実施してください。

1. 各軸受部に注油（6ヶ月毎）
2. 油圧作動油の交換（12ヶ月毎） ●油圧作動油の種類 粘度区分 ISO VG32 耐摩耗性油圧作動油（使用量：0.5L）

7

廃棄

本製品の廃棄については、鉄鋼材・非鉄材・樹脂材・作動油に分別してください。作動油の処理方法については法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。ご不明な場合は販売会社へ相談の上、処理してください。



商品保証規定

保証規定

取扱説明書、本体注意シール等の注意書きに従って正常な使用状態で保証期間内（納入後3ヶ月以内）に故障した場合は、弊社の責任において無償にて欠陥部品の手直し、修理、取り替え、交換部品の送付をいたします。ただし、二次的に発生する損失の保証および、次の場合に該当する故障は保証いたしておりません。

- (1) 使用上の誤り、保守点検、保管等の義務を怠ったために発生した故障および損傷。
- (2) 商品の作動機構に悪影響を及ぼす変更（改造）を加え、それが原因で発生した故障および損傷。
- (3) 消耗品が損傷し取り替えを要する場合。
- (4) 火災、地震、風水害、その他天災地変等、外部に要因がある故障および損傷。
- (5) 指定された純正部品を使用されなかったことに起因する場合。
- (6) 日本国外で使用される場合。
- (7) 保証請求手続きが不備の場合。（例：型式および機体番号の連絡がない場合 etc.）
- (8) 設置に原因がある故障および損傷。
- (9) 弊社販売会社および弊社以外で行われた修理。
- (10) 酷使・過失または事故によって生じたと認められる故障。

なお、本製品およびその付属品に使用されているゴム部品等のあらゆる自然消耗する部品、ならびに消耗品については保証の適用は除外させていただきます。

本製品は屋外設置および耐水仕様になっておりませんので、錆・腐食・漏電等の水による故障は保証いたしておりません。

保証請求方法

上記規定に基づき本製品の保証請求を行う場合は、お買い上げいただいた販売会社までご連絡ください。

販売会社において必要な手続きを実施いたします。

なお、保証の可否は勝手ながら弊社において判断させていただきますのでご了承ください。



アフターサービスについて

調子が悪い時	まずこの説明書をもう一度ご覧になってお調べください。												
それでも調子が悪い時は	商品規定に従い修理いたしますので、お買い上げいただいた販売会社へ修理を依頼してください。												
保証期間中の修理について	保証期間は納品後3ヶ月以内です。商品保証規定の記載内容に基づいて修理いたします。												
保証期間後の修理について	お買い上げいただいた販売会社へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。												
補修用性能部品の保有期間について	本製品の補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後10年間です。 (性能部品とはその部品の機能を維持するために必要な部品です)												
アフターサービスについての詳細、その他ご不明な点はお買い上げいただいた販売会社へお問い合わせください。													
お問い合わせいただく際には、次のことをお知らせください。 型式・機体番号・購入年月日・故障状況（できるだけ詳しく）													
<table border="1"> <tr><td>型 式</td><td></td></tr> <tr><td>機 体 番 号</td><td>No.</td></tr> <tr><td>購 入 年 月 日</td><td>年 月 日</td></tr> <tr><td>購 入 店 名</td><td>社 名： 担当： 住 所： 電 話：</td></tr> <tr><td>設 置 業 者</td><td>社 名： 担当： 住 所： 電 話：</td></tr> <tr><td>故障日・状況</td><td>年 月 日 状況：</td></tr> </table>		型 式		機 体 番 号	No.	購 入 年 月 日	年 月 日	購 入 店 名	社 名： 担当： 住 所： 電 話：	設 置 業 者	社 名： 担当： 住 所： 電 話：	故障日・状況	年 月 日 状況：
型 式													
機 体 番 号	No.												
購 入 年 月 日	年 月 日												
購 入 店 名	社 名： 担当： 住 所： 電 話：												
設 置 業 者	社 名： 担当： 住 所： 電 話：												
故障日・状況	年 月 日 状況：												



梱包リスト

右記表が梱包リストとなります。
注文品に相違がありましたら、お手数ですが販売店までお問い合わせください。

内容物	数量	チェック
本体	1	
取扱説明書	1	



http://bishamon.co.jp E-mail:sales@bishamon.co.jp

〒444-1394 本社 愛知県高浜市本郷町4丁目3番地21 tel.0566-53-1126 fax.0566-53-1844

〒146-0083 東京 東京都大田区千鳥2丁目2番12号 tel.03-3759-9722 fax.03-3759-9723

〒537-0002 大阪 大阪府大阪市東成区深江南2丁目3番22号 tel.06-6747-7617 fax.06-6747-7618

その他営業拠点 仙台・前橋・広島・坂出・福岡

OM-BM 2410[21]9512-S